

平成 30 年度第 4 回（173 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 30 年 11 月 20 日午前 10 時から

場 所：アミュービル4階 アイレック 会議室 1、2

出席者：勅使河原功治、赤川都、有戸英明、景山剛治、菊谷多恵、木元祥恭、
渋谷敏夫、福本徳昭、吉松治任、小糸清美、根岸静代、村野澄夫

事務局（市民協働係長、企画課主事）

欠席者：本庄佳緒里、浅見良子、阿部由紀子、沖山由行、石崎勇仁、奥澤礼子、
小寺和幸、山崎聖

<配布資料>

- 1 平成 30 年度第 4 回（第 173 回）清瀬市まちづくり委員会次第
- 2 地域通貨「ピース」とは
- 3 フェリカポケットマーケティング地域通貨サービスについて

1 開会

2 前回の確認

委員長：委員長として発言するにあたり、進行と混同してしまうので、進行は副委員長行っていただく。

副委員長：議事要旨について意見等はあるか。修正等はないということでしょうか。

<委員 了承>

副委員長：事務局より「空き家の抜本的対策」の回答について説明願う。

事務局：前回の会議で了承いただいた内容で提案者に回答した。

3 提案の審議

副委員長：では、前回協議した「市内イベント等に地域学生の活用し、活性化、担い手づくりを」について審議していきたい。

<副委員長より地域学生の活用の提案を読む>

委員：前回の会議でこの提案は回答になるものと考えている。本日はボラ

ンティア制度について審議すると認識している。

委員：そのような認識はしていない。

副委員長：今回の会議で詰めていくということだったと思う。

事務局：回答になるにしても、回答の骨組みができていない。

副委員長：議事要旨にあるように提言も可能ではないかと意見があったので、審議してもらいたい。

委員：今回は市民まつりの担当部署の企画課や教育委員会など各担当課に任せるという回答案が出ていた。どのような回答案にするか。

委員：学生は休日でない、イベント等には出られない。イベントによって主催者が決めることであって、まちづくり委員会が決めることではない。

委員：若い人たちを次の担い手に育てていくことが今回の提案だと思う。他市で良く見られるのは、企画段階から参加することで、若い人を巻き込む。運営と企画は違う。企画から参加してもらわないと若い人は育たない。前回の話だと、若い人たちは忙しいと発言があったが、最初から関わってもらわないと意味がないと思う。例えば交通整理を手伝うことだと運営に携わっているだけなので、意味がない。教育委員会に協力してもらい、学生が参加できるようなしくみを考えてもらう。そのような内容を含んだ回答にする。

委員：それぞれ担当課、主催者に企画段階から学生が関わってもらうように回答することがよいと思う。

委員：学校支援本部がボランティアを募集している。重複している部分があるので、各担当課が教育委員会と協働してもらうといった回答を盛り込んでほしい。

委員：イベントによって企画から携われる内容と運営だけ手伝ってもらえる内容があると思うので、各担当課、主催者に判断してもらったほうがよいと思う。

副委員長：今回の提案は回答で良いか。回答内容は本日の発言と前回の内容を踏まえてまとめる。

<委員 了承>

副委員長：回答のたたき台は委員長、副委員長と事務局で作成する。

委員：たたき台があった方が審議しやすい。

委員：市民まつりは日本社会事業大学の学生が参加していると聞いている。

事務局：市民まつりは日本社会事業大学のボランティアサークルが企画段階から参加している。

副委員長：事務局が発言された内容も盛り込めたらいい。続いて、「ボランティアポイント制度」については皆さんから多くの意見を聞きたいため

グループのワークショップ形式で意見を出していただこうと思う。
事務局：2グループ作り、青の付箋に「意見」黄色の付箋に「質問・疑問・確認」を1枚に1アイデア書いていただく。

副委員長：本日は意見出しのみを考えている。次回まとめていく。

<以下、ワークショップでの発言>

「意見」

- ・現金化するための費用は？難しい
- ・ボランティアをお金に換えるのは難しい
- ・既存団体とのからみ
- ・シルバー人材センターが管理して行うこともできると思う
- ・資金は考える必要はない
- ・「ピース」と似ているモデルと提案者が言っているので「ピース」の方に話を聞く
- ・イベント企画時に必ず学生に声かけをする
- ・ボランティア保険
- ・ポイントの登録はどのようにするのか
- ・若い方の考えには高齢者からみたらとんでもない発想に思うが結構合理的
- ・パトロール中にごみを拾う
- ・子ども達も認知症サポーター講習など参加している（学校全体で）のでそちらの方から声をかけると参加しやすいのではないのでしょうか
- ・1人住まいの方の救急連絡先がわかる様
- ・地域通貨「ピース」の活用
- ・ポイントの小学生の換金は難しいのでは
- ・内容が多種であり、それをどう評価し、公平性を保つか
- ・高齢者の考え方の尺度を押し付けない
- ・システムはシンプルにしないと担当課の業務量超過になり最終的にたちゆかなくなる事も考えられる。しかし、シンプルにというが、アイデアが浮かばない
- ・市の財政的裏付けは取れるのか
- ・まず、商工会が行っていたニンニクスタンプ制度は、市としての出金もすくなく貧乏市としては良いのでは。もらう方は当たりはずれの楽しみがある
- ・学生の自主性に任せて企画してもらおう（「させて」という意識が良くない）
- ・個人的ボランティア活動をどう把握するのか
- ・ボランティアの型も多種にわたる。どう整合性をつけるか
- ・資金調達が鍵になる
- ・無償で支援している方々もいらっしゃるので、どのくらいの見返りにするかをきちんと考えた方がよいと思う。ある程度の回数支援をして初めて有償と

なる制度にすると良いと思います。

- ・学生は有償にしない方がよい
- ・ボランティア対個人の違い。無償ボランティアを望む方への扱い。本人の意思に任せるのがベター
- ・ボランティアポイント制度のために新しい組織を立ち上げる事になるのか
- ・参加する市民が何をやっているのか、わからなくなってしまうのではないか
- ・ボランティア内容はポイント換算するなら時間換算にするのが良いのではないか
- ・どのように進めていくかはやり方が複雑であるので、よく考えて進めた方がよい
- ・社協（ボランティアセンター）に聞いてみてはどうか
- ・作業内容で年齢制限
- ・うまくいく「管理」「組織作り」に関する発言がでていない
- ・ポイントをつけるより、その場で現金を渡す方が良いのでは
- ・現金でなく「券」を渡す
- ・管理するのは民間でもいいのではないか
- ・時間の管理、内容の管理が難しい
- ・母体はどこにするのか
- ・目的の問題 シルバーや子育てなどは目的がはっきりしている
- ・かたくりまつりを参考→市から委託を受けている
- ・市の施策に沿ったボランティアを進めていきたい
- ・事業として行う。団体との整合性は
- ・ポイントを付与するのはとても難しい（管理組織）
- ・ポイントの登録をどうするのか（参考：健康ポイント登録が面倒）

「質問・疑問・確認」

- ・やるとしたら母体は
- ・お金の管理は誰がやるのか
- ・お金の使い方はわからない
- ・清瀬の学生ボランティア登録制度の実態をしりたい
- ・介護士免許など資格がないとできない支援の区別がわからないところがある
- ・資金と運用
- ・ポイントの管理はどのようにするか、嘘の申請をする人がいるかもしれない
- ・アプリ活用できないものか
- ・ボランティアには様々ある。まとめるとなると、難しい
- ・使いやすいHPが重要
- ・野良猫にエサをやっている

- ・地域通貨ピースのシステムがわからない
- ・犬のフンの処理しない人が多い
- ・ボランティアの内容について
- ・ボランティアをお金に換算するのは難しい
- ・高齢者をどう取り込むか
- ・ボランティアは無償は将来的にダメ、有償化すべき
- ・運営主体は？
- ・担当部署がちがう制度を一緒に組み合わせることは可能なのか
- ・個人的ボランティア活動をどう把握するのか
- ・内容が多種であり、それをどう評価し公平性を保つのか
- ・すでに立ち上がっている制度をどう区別するか？
- ・ピースの具体的内容。例えば、券の価格、効能性、軍資金
- ・ボランティアを受けた方の証明（時間と内容）を取る
- ・ボランティアの型も多種にわたる。どう整合性をつけるか
- ・有償にするべき。無償は続かない
- ・なんでも有償にするのはいかなものか
- ・ベルマークを参照
- ・市の財政的な裏付け
- ・ボランティア？チャリティー？
- ・ボランティアの評価をどうするか
- ・清瀬学生ボランティア登録カードはどれ位、活用されているか
- ・現状にある健幸ポイント等の運用状況が未だ理解できない
- ・ボランティアポイントの資金はどこから
- ・ボランティアの内容によりポイントの換算を誰がどのように決めるのか
- ・ボランティア活動センターの話が聞きたい
- ・65歳以上の人に対してのポイント制の理解は？
- ・高齢者で認知症も含んだボランティアも考える必要
- ・ピースの団体の認識が薄い
- ・ピースのスタッフに説明を聞きたい
- ・健康ポイント制度事業の認識が薄い
- ・お金どうするのか、誰が管理するのか
- ・「ボランティア」との境
- ・有償ボランティアの考え方
- ・健幸ポイントの説明がほしい。経過が聞きたい
- ・仕事（管理）が増えるメリットは？
- ・買い物、ごみ出し、話し、雪かき、ボランティア
- ・ポイントを付与するには管理が必要で、ボランティア団体が市に登録し、決

められたフォーマットの用紙を提出してもらい、また、市で管理（実際に参加？）する必要がある。

- ・ボランティアの内容によってポイント化するのが難しい
- ・ボランティア活動時の保険はどうするのか？
- ・「ポイントを小学生にも換金できる」ところは、親の考えもあるので、難しいのでは
- ・ピースの制度について詳しく知りたい

副委員長：小グループのワークショップ形式は初めての試みだったが、課題や方向性が出て活発な意見が出た。Aグループでは社会福祉協議会や地域通貨ピースの方々に来ていただいて話を聞くという案も出た。

事務局：Bグループでもピースについて話が出た。意見の方が多く出た。

副委員長：また、今回の模造紙を次回の会議でも持ってくる。他に事務局より連絡はあるか。

事務局：2019年2月のまちづくり委員会は開催しない予定である。

次回の開催は12月18日（火）10時～男女共同参画センター会議室1，2